

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

燃えさしに託された「聖」と「宣」

教育局長 小川 宣嗣



「主はサタンに言われた。『サタンよ。主がおまえを
とがめる。エルサレムを選んだ主が、おまえをとがめ
る。この者は、火から取り出した燃えさしではない
か。』（ゼカリヤ三・二）」

教団創立記念の月。73年前に、ごく少数の器方の真
実な祈りの中で誕生した群れは、幾多の困難と試練の
中にも注がれ続けた主の恵みと、先輩方の信仰と貴い
働きがあつて現在に至ることを心から感謝し、へりく
だつて、主がこの群れを興され、私たちを摂理的にこ
の群れに導いてくださったみこころに少しでも沿うこ
とができるよう祈る時でありたいと願います。

預言者ゼカリヤが見た「火から取り出された燃えさ
し」とは大祭司ヨシユアのことです。イスラエルの罪
を代表して主の前に立つヨシユアをサタンが訴えよう
とする場面で、バビロン捕囚という火の取り扱いを通
過して来たヨシユアを、主ご自身が強力に弁護してサ
タンの訴えを退けると共に、主のみこころを行うため
に汚れた服に代えて聖なる礼服を着せ、「きよいター
バン」をかぶらせてくださいます。ターバンには「主
への聖なるもの」と記されます。一言の弁明もできな
いヨシユアの側に立って弁護し、聖い衣とターバンを
着せて聖別し、再び大切な使命と働きのために立たせ
る方、また「わたしの道に歩み、わたしの戒めを守る
なら」（7節）と教え諭して下さる方こそ、十字架に
よる全ききよめを成し遂げた主キリストご自身です。
教団創立70周年を記念して発行された説教集「語り

継ぐ「聖と宣」（2015年、出版事業部刊）の中に、
福田^{よはね}約翰先生（第2代総理）が語られた「三段の恩
寵」という題の説教が掲載されています。その中で福
田先生はご自身の通過された試練を赤裸々に証しされ
ます。心臓病で入院された後、やっと退院されてまも
なく、奉仕先の京都伏見教会が火災で焼け落ちてしま
います。しかもその火元が教会牧師館のストープであ
つたこと、火災のために大切な会堂も書籍もすべてを
失ってしまったことなど、状況は深刻でした。しかし
先生はそんな中で残された二つのものについて語
られます。「塔の上の十字架と土台は少しも損傷して
いませんでした。教会そのものは破壊されませんでした
。どういふことかと言いますと、着物のような教会
の建物はだめになつてしまいましたが、教会の実体で
ある信者の群れと信者の信仰はいささかも損傷しませ
ませんでした」（108頁）。そして、福田先生と教会は再建へ、
そして宣教の働きへと立ち上がって行かれます。

インマヌエル創設直後、本部となる船橋の改装中の
医院建物が放火で全焼した際のこと、50周年記念誌
に記されています。火災による心の重圧の中で、葛田
二雄師を始め同志方は祈りと感謝をもって新しい出発
を決意、「一棟の家屋の焼失に代わって、世界大の神
の家が起こされた」と告白されたそうです（21頁）。
火から取り出した燃えさしのような私たちに、そし
て現実の課題に翻弄される教会に、主の力強い弁護と
聖別の恵みを期待して祈り続けましょう。

目次

- 燃えさしに託された「聖」と「宣」……小川宣嗣……1
- 教団創立記念日、牧師研修会、九州青年大会……2
- 教団運営委員会から、とにキャン報告……3
- 海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
- 教区主事会議、出版事業部、エドナ先生追憶……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

教団創立記念日 10月21日 エベン・エゼルの主に 期待し、前進する時に



教団代表 内山 勝

れみが尽きなかったからなのです。普段、教団のことをあまり考えない方も、この事実を心に留めていただければ幸いです。

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。」
(ヘリ・ヒ・13、14)

*

今月、私たちの群れは創立73周年を迎えます。主が小さな群れをここまで導いてくださったのは、私たちに特別な何かがあったからではなく、むしろ何もなかったからでしょう。私たちは依然として無に等しいものですが、主が私たちに御目を留めて憐れみと愛を示してください。

心一杯エベン・エゼルの主に感謝をささげようではありませんか。もしもイムマヌエルの群れが誕生しなければ、私たちお互いの教会は存在せず、その教会に連なる私たちも、ここにはいないことになりません。ですから、私たちが、今このようにしてあるのは、すべて主の恵みによるのです。主の憐

れみによって、前進するものです。今までしていなかったことを始めるのは勇気がいりますし、批判の声も受けるでしょうから、決して容易ではありません。しかし、何も始めなければ、改善を期待することはできません。

収穫を期待するならば、種を蒔くべきなのです。種とは小さいものです。こんなものを蒔いて何になるのかと思うほど頼りないものにも見えます。しかし、種にはいのちが宿っています。主が共にいてくださるならば、種は必ず育って行きます。

もちろん、目新しいことをすれば良いというのではありません。これまでして来たことを、もう一度捉え直し、主に期待して、新鮮な思いで働きを継続することにも大きな意味があるでしょう。

創立記念日に際し、私たちに何らかの気づきが与えられ、共に祈り、行動に移すことができますようにと心から祈ります。

第4回若手牧師研修会

少人数で、集中して……

教会を学ぶ機会



生涯学習課 田辺寿雄

8月20日(月)夕方から21日(火)お昼にかけて、生涯学習課による若手牧師研修会を開催しました。

これは、神学院を卒業して7年以上の先生方を対象としたもので、今年で4回目を迎えました。これまでは年会などに併せて開催していましたが、今年は時期をずらして、試験的に男性のみを対象とした小規模なものとなりました。結果的に研修対象牧師3名、講師2名、計5名の出席者でした。また大阪伝法教会のご協力を得て、初めて教会を会場として行われたことは大きな恵みでした。

20日夕方は小礼拝で始まり、午後後約半年の歩みについて分ち合う時を持ちました。それぞれが牧会伝道の中で経験した恵みや失敗から学んだことなどを分かち合いました。

夕食後のセッションのテーマは「教会のライフ・サイクル」(担当は田辺)でした。各自、自分が牧会する教会について事前に学

んできたことを発表し合い、ライフ・サイクルという観点から見える教会の現在地を確認し、そこからどのようにして再生してゆけるかを考えました。

21日午前のセッションでは、「教会建設」をテーマに国内教会局長の岩上祝仁先生が指導下さいました。教会とは、クリスチャンとは、という定義の再確認に始まり、教会を建て上げ、人を育てるとはどういうことなのか、教会で行っていることが信仰を育て得る環境となっているかなど、様々な角度から考え、活発に意見が交わされる時でした。

少人数ゆえの自由な雰囲気の中で、具体的かつ実践的な学びの時となり、御名を崇めます。せっかく大阪に来たのだからというので、昼食はお好み焼き屋へ。安くておいしいお好み焼きを満喫し、一同解散しました。

第2回日本青年伝道会議開催のご案内

日時 2018年11月22日(木)～24日(土)
会場 渋谷hi-b.a お茶の水OCC
山崎製パン総合クリエイションセンター
テーマ 「神の国マインドに生きる」

「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコ1章15節)

*詳細は11月号に掲載します。教報7月号5ページに、蔦田聡毅先生の案内文が載せられています。

第5回九州青年大会

ライフスタイル in Christ

私たちらしい 生き方をしよう

久留米教会 吉村和記

青年たちとの話し合いを反映させて、今回の講師、小川宣嗣先生がテーマのキャッチコピーを考案し、2回のメッセージを語ってくださいました。45名の参加者がみことばにふれ、仲間たちと交わりを深めました。全プログラムを終えて、別際には笑顔の輪が広がりました。今年は、山口教会・下関教会からも参加され、また昨年の青年大会をきっかけに救いに導かれた姉妹、現在求道中の方も参加され、とても感謝でした。回を重ねるごとに祝われています。



9月16日～17日に須賀高原青年自然の家で

教団運営委員会から……

改装を終えた

研修棟ベテルハウスで

広報 大兼久芳規



今回は9月10日(月)～11日(火)に、旧女子寮を改装して出来たベテルハウスを利用して教団運営委員会が開かれました。初めにベテルハウスの工事風景の行程映像を見ながら、良き研修施設が与えられたことの感謝をささげました。

研修棟の収容人数は、ホールが60名(最大100名)、宿泊が50名(最大60名)です。今後は研修会、青年集会などに利用できます。

【国内教会局】

台風21号、北海道胆振東部地震などの災害の多発に対して、祈りと情報共有がなされています。今後は災害対策委員会により、個別対応がなされていきます。

【世界宣教局】

グローバル・ユース・ミニストリーの拠点となる「グローリアティンセンター」が着工され、日曜日午後には、集会が開始されています。来夏のザンビア宣教訪問団は、青年、医療に関心のある方を中心に募集がなされます。

【教育局】

第6回YSも定員60名のところ100名の参加、とにキャンにも奉仕者を含め、定員以上の130名の参加があり、生き生きとした青年集会が継続されています。最近の特徴は、とにキャン卒業生が、そのまま奉仕者として加えられ、またYSの奉仕に加わるといふ連続性が始まり、御名を崇めています。

【年人会】
年会のプログラムが検討されました。伝道者お互いが刷新され、進もうとしている目標を共有し、一体感と励ましの与えられる年会となるよう取り組んでまいります。2回の研修会で、①伝道を考える、②高齢化への対応、③学びをします。宣教研究委員会より、近日中に全国に依頼される「伝道活性化アンケート」を通し、今の時代の伝道の姿を覚え、良き方策を分かち合います。また後半は、厚生局の里村姉をお迎えして、高齢化、認知症への対応について現場の声に耳を傾けます。また2020年の年会は、会場を神学院に移して、ファミリー年会をと検討しつつあります。

【信徒局】
各聖会・教区会に斎藤局長、中山局員、池田兄を中心に案内がされています。目標としては①壮年部大会、女性部大会の継続と協賛への期待、②壮年部、女性部の運営委員にさらに信徒が加えられること、③将来的には、教団総会の信徒総会代議員は、信徒の互選による選出が期待されています。

第11回 とにキャン

the Goal ～これが僕らの歩む道～

8月14日(火)～17日(金)

上田教会 古川恵子

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやいなさい。」(Ⅱテモテ四・2)

今年も聖山には元気な中高生の声が響き合いました。キャンパー、スタッフ(とにキャン卒業生も含めて総勢1300人の大家族です。年々参加者が増えて、部屋の確保が難しく、とうとう男子のグラウンドワーカーの先生方、奉仕者の方は一つの教室で雑魚寝をする事態にまで祝福されました。

ミュージックの歌声とバンドで心も溶かされ、神様を全身で賛美するキャンパーの姿には大きな感動を覚えます。楽しいゲームとハワイの雰囲気を楽しませる食事。とにキャンは毎年イベントを変えます。川を下るラフティング、ハイキング、沢遊びなど10の選択レクがありますが、今年は雨で外のレクができないため、体育館で楽しいゲームをしました。分科会には、初めてのキリスト教、神様のために働きたい、フレンズ、な



ど12項目あります。7名ぐらいの人数で担当の先生方が丁寧に教えてくださいます。少人数なので、普段話せないこと、疑問に思っていることを話しやすい雰囲気です。

また、医師の奉仕者も加わってくださって、迅速な対応で大きな安心感を与えられます。

今年もユース代表スタッフの川口竜太郎先生をお招きしました。イザヤ書四三章から「主ともに生きる」～神の視点から私たちを見る。第Ⅰサムエル記一七章から「羊飼いのダビデ」～主の戦いに生かされる。ヨハネ書二〇章「マグダラのマリア」～何もできなくても。第二テモテ四章「弱さの中で」～時が良くても悪くてもが語られました。「私たちは小さく、弱い存在です。けれども、その弱さを神様が用いてくださる。

イエス様を信じるとき、中高生の皆さんを通して神様が働かれる。だから、大丈夫、信じて前進しましょう」と、中高生に語り口と熱い情熱をもって語っていただきました。特にゴリヤテを倒したのは、王のダビデではなくて、まだ、小さな羊飼いのダビデが倒したと語ってくださいました。小さくても、神様が働いてくださる信仰に私自身が大きな励ましをいただきました。

最終日は、別れを惜しみながら、それぞれの帰途に着きました。遠方から参加してくださった先生方は、翌日教会に到着するという命がけのご奉仕をしてくださいました。また、宣教地台湾からも参加してくださり感謝しております。イエス様が、中高生お一人おひとり祝福してくださいませうにと心からお祈りしました。

国内教会局から

教会建設の務めに
謝恩日聖日に想う

謝恩日聖日を越えて思
い巡らすみことばの一つ
が「この人は貧しい中から、
持っているすべてを……す
べてを投げ入れたのです」
(マルコ二・43、44)と
いうイエスさまのみことば
です。「すべてを」献げた



ことが尊ばれていることは
言うまでもなく、先輩の先
生方の良き模範をそこにも
見出す者ですが、主はもう
一つこの女性の貧しさにも
目を留めておられます。彼
女が抱えていた限界です。
人には限界があります。
体力や集中力の衰え、育児
や介護のために割かれる時
間や経済的制約。教団人と
して果たす役割や担う責任

のためにご奉仕が分散する
のも人の持つ制限でしょう。
無論、優先事項を度外視し
た繁忙は再考の余地がある
でしょうが、人として歩む
に当たって避けられない限
界は存在します。しかしそ
れらは私たちを聖務から免
除する条件ではなく、主は
むしろその「中から」すべ
てを投げ入れたことを喜ば
れたのです。(葛田崇志)

■サドルバック教会創設38年で
5万人目の洗礼式
米国最大の福音派教会の一つ
『サドルバック教会』(カリフォル
ニア州レイクフォレスト、リック・
ウォレン主任牧師)は8月12日、
同教会で5万人目となる洗礼式を
行った。

同教会は現在、19のキャンパス
(拠点)があり、先週末には各キャン
パスで合わせて数百人が洗礼を
受けた。

■「モルモン教」と呼ぶな、と最
高指導者が信徒に
『末日聖徒イエス・キリスト教
会』(本部)米ユタ州ソルトレー
ク(の最高指導者、ラッセル・M・
ネルソン大管長(93)が8月18日、
カナダ・モントリオールでの会議
で信徒に対し、教会や教会員に言
及する際に「モルモン教」という
名称を使用しないよう求めた、と
AFP通信が報じた。

指導部が発表した手引書新版
「地下教会」を開鎖

■中国が最大規模のキリスト教
は、同教会を二義的には「イエス・
キリスト教会」や、単に「教会」
と呼ぶべきとし、これまで一般的
に使われてきた「モルモン教会」
は「公認されたものではなく、教
会は使用を推奨しない」としてい

る。ネルソン大管長は「名前を変
えているのではなく、正している
のだ」と説明した。



海外トピックス

中国の首都・北京朝陽区民政局
は、同国で最大規模のプロテスタ
ントの「地下教会」が認可なしで
活動していたとして、シオン(錫
安)教会の閉鎖に踏み切った。
同教会は、北京北部のオフイス
ビルの3階にあり、同教会は、毎
週最大1500人が礼拝に通って
いた。

金明日牧師の話によると、9月
9日午後の礼拝後、当局者約70人
が教会に踏み込んだという。民政
局は「捜査の結果、北京シオン教
会は未登録で、社会組織の名目で
不認可のまま活動を行っていたこ
とが判明した」と発表。翌10日、
現場では、少なくとも十数台の警
察車両、制服姿もしくは私服姿の
当局者数十人が、礼拝に使用され
ていた建物の周りで配置について
いた。
AFP通信の記者が建物に入ろ
うとしたものの阻まれ、当局者が
3階は封鎖されていると述べた。
(平瀬聡樹)

読書の



聖書を読む助けに

聖書地図

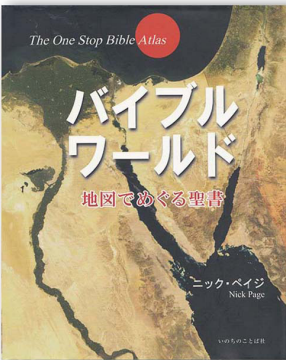
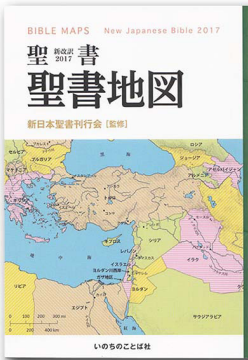
新改訳聖書2017に準拠

バイブルワールド

地図でめぐる聖書

出版事業部扱いです

新しい聖書になって、最初の戸
惑いは人名、地名の表記が変わっ
たことです。アンテオケがアン
テオキアに、ヨッパがヤッファ
に変わりました。自分はいまどこ
にいるんだろう?と右往左往して
しまいます。自信を持って地名を
言うことも難しくなりました。聖
書の巻末にはすばらしい地図が添
えられています。それをそっくり
(色は濃いめですが)別冊にした
のがご紹介する『聖書地図』です。
聖書に付いているのだからと思
われるかも知れませんが、聖書を
読みながら巻末の地図を開くのは



意外と骨が折れます。定価がわず
か200円(大型は400円)で
す。横に置くと、地図を開くスト
レスが一気に減ります。聖地旅行
に出かけられなくても、心は聖書
の舞台を駆け巡ります。
『バイブルワールド』は、教報
1013年10月号で三森春生先生
が紹介してくださいました。聖書
を読むためのとても有用なツール
です。定価もリーズナブルに抑え
られて、1600円。もっと大冊
の『マクミラン聖書歴史地図』が
15000円!なのに比べると約
10分の1です。残念ながら、地名
がまだ新改訳聖書第三版のまま
で、そこは読み替えをしなければ
なりません。依然としてなくては
ならない参考書です。三森春生先生
が「聖書地図は歴史地図ですから、
族長たちの旅路、出エジプトの経
路、ダビデの逃避行、主イエスの
足どり、使徒パウロの足跡など、
地図の上でたどれます。」と紹介
しておられます。
いのちのことば社では、新改訳
2017に合わせた新しい聖書地
図を計画しているそうです。それ
もまた楽しみです。(矢木良雄)

教区主事会議 8月27日~28日
 改装された研修棟で開催
 教区の活性化を旨とし
 研鑽と課題の共有

国内教会局長 岩上祝仁

改装された研修棟を会場にして、国内教会局の全国教区主事・BA会議が開催されました。昨年度から年2回、主事の先生方とBAの先生方が一堂に集まって、教団と各教区の重荷や課題を共有し、共に祈り、取り組んでゆくために行ってきました。今回は少し時間をとって研修会の要素を入れてみました。ホテルハウス(研修棟)が完成したことで、ゆつくりと交わり、学ぶことができる環境も整えられたので取り組むことが可能になりました。研修の内容は4つ。

第一は厚生委員長の里村佳子姉による教会・教団の高齢化にどのように対応するかがテーマ。この研修は牧者としてのあり方にも光が当てられる良き学びでした。

第二は川嶋直行師による「伝道」について。求める方にストレートに福音を伝える伝道会という従来のスタイルと共に時代と人々の要請を見極め、地域の人々と信頼関係を構築しつつ、その上で福音を

伝えてゆくことの取り組みを分かち合いながら「伝道について」祈り考える良き時となりました。

第三は葛田崇志師による「説教」について、特に説教によって教会が建て上げられるという言葉を取り上げながら、説教塾での体験を基にして、説教を建德的に磨き上げることの大切さが語られました。その後で、互いの説教の取り組みを分かち合いました。

第四は教団の今日的な課題、次世代の育成や地域での連携などを取り上げ、祈る時を持ちました。

今回のハイライトは早天でした。大兼久先生を通して、ホテルに上ったヤコブのような献身者の生涯をスタートした学び舎で伝道者としての原点を振り返ることができ、詩篇八六篇から「一つ心」で歩むことの大切さが語られました。

今後もBA主事会議を通して教団内でのコミュニケーションができるように取り組みます。



続々と新刊書が

出版事業部 川村和臣

9月7日に出版事業部全体委員会が行われました。

デイポーションの後、業務課から「信仰教理問答集」祈りのネットワーク2018、「こころCafe」が発行され、それぞれ用いられていること等が報告されました。

その後、今後の書籍の発刊について協議がなされました。特に聖書を土台とする信仰生活の手助けとなるような書籍として

▼新版「信仰生活ガイドブック(仮題)」。信仰、教会生活の基本を記したものの。来年の年會時に。

▼「わが道の光(仮題)」(岩上敬人師)各書簡の説明や聖書の成立などの知識も加えたもの。来年夏の出版を目指す。

▼きよめのテキストとして使用されている「聖化」(アボット師著)を再版すること。

などが確認されました。その他「こころCafe」の電子書籍化、「役員研修テキスト・II合本」なども検討されました。

「つばさ」では地上生涯の締めくくりに向けた信仰的、実際的な備え等も取り上げることになりました。なお、出版事業部の働きのためにお祈りください。

追憶

故エドナ・ジョンソン先生

2018年8月29日ご召天(享年94歳)

エドナ・ジョンソン先生は1924年5月11日に、米国オハイオ州ブリッグスデールで6人兄弟の5番目として誕生されました。幼い頃は荷馬車やトラックの荷台で教会に通い、高校を卒業後、議員秘書を経て1948年にマリオン(現インディアナ・ウエスレアン)大学で美術を専攻、卒業後ご主人のハロルド・ジョンソン師と共にミシガン州の小さな学校で教えた後、1952年にご長女を連れ、ウエスレアンの宣教師として貨物船で日本に赴任されました。

以来34年、日本で奉仕され、講演者、執筆・編集者、ピアノ演奏・作曲者として賜物の豊かな器でしたが、常にご主人を立て、日本語も大変お上手でしたが「不正確な日本語で話すのは失礼」と、あえ

て多くの前では語られない、謙遜で柔和な先生でした。けれども先生のご人格やご奉仕を通し、多くの方々に霊的な影響を与え、信仰に導かれました。

「イムマヌエル讃美歌」、「ひむなる」、「教会福音讃美歌」に3通りに訳されている「御霊の妙なる業の」をはじめ、いくつもの曲で作られ、中でも「ひむなる」1番はジョンソン家の毎朝の家拝の賛美でした。ジョンソン師が最後に合同礼拝で熱唱された「朽つべき人なる我に」は、ご主人の賛美に沿って即興で作曲された讃美歌です。新しい讃美歌を紹介し、アドバイスをくださるなど、讃美歌発行のために陰の労を担われました。神学院では音楽や英語のクラスを担当され、卒業生のために結婚式の仲人も経験されました。

2年前にご主人を送られ、施設で晩年を過ごされましたが、8月29日、70回目の結婚記念日の4日前、午後11時11分に94年の地上生涯を終えて、静かに天に帰られました。ご長女の他に日本生まれの3人の子ともさんとご家族、孫10人、曾孫7人がおられます。



Edna Johnson
 May 11, 1924-
 August 29, 2018

巻頭言

翼を広げる



世界宣教局
葛田 敬子

「若者も疲れて力尽き、若い男
たちも、つまずき倒れる。しかし、
主を待ち望む者は新しく力を得、
驚のように、翼を広げて上ること
ができる。」(イザヤ四〇章29節)
「広げた翼」というタイトルが



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

つけられて、世界宣教局(当時は
国外宣教局)から創刊されたのは
1996年のことでした。やがて
『教報』の中に再び組み入れられ、
今年はまだ23年目を数えています。
果たしてどんな「翼」がどのくら
い広げられてきたのだろうか、と
ふと考えさせられました。
聖書には「翼」がたくさん描か
れています。めんどりがひなを翼
の下に集める画、鷲が翼を広げて
その上にひなを乗せて空を舞う姿、
あるいは翼を広げた鷲が力強く羽
ばたく様子。あるときは陰をつく
り守りの壁となり、ときにはクツ
ションとなり、驚異的な推進力と
なる「翼」。守ってくださいる主の
翼を知ると共に、私が広げること
のできる翼があることを思います。
今年の猛暑、台風、豪雨、地震

には、「命の危険がある」とか「今
まで経験したことのない」などの
表現が使われ、その規模や強さに
打ちのめされるような思いがあり
ました。しかし、周りから押し迫
るような圧力を感じながら、気づ
かぬうちに委縮して、視線が足元
に落ちてゆくようなとき、私たち
には、広げることのできる翼が与
えられていることを思うのです。
状況が絶望的に思える時、自分の
無力さを思い知らされる時、それ
でも、いえ、それだからこそ「主
を」待ち望むことの意味と力強さ
を経験するように、と招かれてい
るのではないのでしょうか。自分の
ためにも、周りの方々のためにも
たたんでいた翼を思い切り広げる
時、ぐっと押し上げられる風の流
れがあることに気づくのです。ば
たばたと必死にもがくのではなく、
しっかりと翼を大きく広げること
によって、そこにある風を捉えて
ゆくのです。
宣教師を送り出し、支え、共に
戦う働きの中で、様々な困難を突
きつけられるのが現実です。世界
情勢?経済?健康?理解?時代の
厳しさや人材の課題、すべてを承
知しながら、私たちは翼を広げま
す。それは、どんな条件の下であ
っても、「主を待ち望む」ことを妨
げることのできるものはないから
です。
宣教は主の働きですが、主は弱
い私たちひとりひとりを助けられ
ます。翼を広げることができ、
と励ましてくださいます。

8月14日から17日まで、4年に
一度行われるウェスレアン教会の
全国責任者会議が開かれ、全国各
地より教区長ご夫妻(22教区)と
聖書大学各校長ご夫妻(5校)、
そして各局長ご夫妻合わせて62名
がパラワン島に集まり、私たちは
家族で招かれ出席しました。今回
は常喜が主講師として招かれ、2
日間の朝のチャペルでエリヤの生
涯から講解説教をしました。
今回の会議のテーマは「ともに
労し、ともに成長」でしたが、代
表ギリアモ先生より奉仕の依頼が
あった時から1列王記一九章のエ
リヤの物語が心に留まり、一日目
は一七章から「神が求める真の預
言者」、二日目は一九章から「出
て、神の前に立つ預言者」と題し
てそれぞれ説教しました。年齢的
にはほとんど私の方が若いので
すが、皆さん真剣に耳を傾け応答し
てくださり、主が御霊を通して働
かれていたことを実感しました。
夜には男性と女性に別れ、女性



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2018年9月6日



8月に開催されたウェスレアン教会の全国責任者会議

は証しを中心に集会が行われ、恭
子は「宣教師の妻と宣教師として
の役割」と題して証しを依頼され
15分ほどの証しをしました。
新しい学期が始まりました。新
入生は12名、全学生数は45名とな
りました。政府が11ヶ月12年制を組
み込んだことによって、ここ2年
間は新入生が僅かでしたが、今年
は12年教育課程を終えた学生が入
学してきました。実は聖書大学と
してはもっと多く期待していまし
た。ところが政府指定の大学に入
学すれば奨学金が出るという制度
ができ、その奨学金を頼りに他大
学に入学してしまった学生もいる
ようです。いずれにせよ、学生た
ちが一日も早く大学での生活に慣
れ、訓練と学びに励むことができ
るように引き続きお祈りください。
常喜は『ダニエル書 黙示録』「ウェ
スレー神学」を今学期4年生に教
えることとなりました。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2018年9月2日

カンボジアにいるような日本の夏でしたが皆様方の力強いお祈りにより支えられて秋を迎えました。カンボジアからの報告が入って来ます毎に主が着実にご自身のお働きを進めていて下さることに励まされております。一方、8月になされた大統領選挙の結果はカンボジアの将来に不安を感じさせられる結果でした。福音がこの国を速やかに、力強く占拠するようにと祈らせられることです。一方、ヴァンデイ先生の開拓教会では出入りしている青年男子が10名前後おりますが、女子の青年が一人もいない状況でした。しかし先日のご報告によりまずと、同じプノンペン市内で教会を建設中のグレッジ宣教師(比国シニブシップ出身)の教会から、CSの応援隊として4名の姉妹方が毎聖日派遣されるようになったとのことお知らせを頂きました。これは段々と協体制がとられ始めつつあることを意味しており、御名を崇めております。7月

には全伝道者を集めてのセミナーが持たれましたが、第一日目にヴァンデイ先生が向こう5年間までに達成したいヴィジョンを吐露され、神様以外のサポーターを持たずに教会を建て挙げようと励まして一同、霊を一つにされて第一日目を終了。ところが、最初の日に欠席していた一人の伝道者が2日目に出席をして、「自立するまでは、外国からのスポンサーを見つけない」と演説。信仰的に幼い伝道者はかなり影響を受けて妨げられたので、この先生との霊的一致のために祈り頂きたいとのお願いが来ました。いつもサタンは神の祝福がある所に邪魔をして来ますが、この出来事もそうでした。燃える火に水をさすように伝道者の心に聖霊が火を燃やして下さったとみると、不信仰な意見を語るにより火を消してきます。しかも人間的には非常に雄弁な人を使って! ヴァンデイ先生はこの伝道者ともっと時間をとって話し合い、霊がひとつとなるように祈ってゆきますので、お祈り下さいとのことでした。



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2018年9月4日

どうしてこんなに日が早く飛んで行くのか?と思う月でした。一週間のジエンボ地域の教会が全部集まるキャンプミーティングがありました。プリグリム・ウエスレアン・チャーチの教会全部が集まる会合(IGMの年会のような集いが2年に一度もたれず)が3泊4日首都ルサカで持たれました。代表は継続で、他のリーダーの再選、幾つかの局長の異動がありました。私たちの隣におられるモノノ局長もジエンボ地域からチョマ地域の局長として異動になりました。教職按手札(男女とも)もありました。それぞれが主に仕えることの宣言をされ、また按手受らけた方の奥様やご主人がこれからも奉仕ができるように援助のサポートをしていきますというような宣言もあり印象的でした。IGMの年会でも見られる久々にお会いする方との出会いの喜ぶ姿があちこちで、また集会の裏方の方々事務的なこと、また食事の

世話など、みな一生懸命されている姿に御名を崇めました。働く姿は美しいですね。今回はオフィスの秘書が変わられたこともあり、いささか準備、手順が追いつかないこともあり大変でしたが、様々な助けがあり最後まで全うすることができ感謝でした。私も一部ではあります、前日から終了までご奉仕をさせて頂きました。また宿泊はザンビアの前の女性代表の方と一緒させて頂き、とても感謝な時を持つことができました。ある学校での宿泊なのですが、シヤワーで掃除がされている部屋、シヤワーでお湯が浴びられたのも私にとっては全期間全うできた大きな要因でした(日本人の方には、ちょっと難しいこともあるかもしれません)。

かなり寒かったザンビアも、今度には急に真夏のような暑さになり体がついていくのに大変です。それでもまだ時折朝の冷える時もあります。そしてかなりの砂ほこりが舞う風が吹いています。乾燥が半端ではありません。気候がそうさせるのか?私の体が弱くなったのか?ですが、背後のお祈りに支えられ守られています。ありがとうございます。野菜を作っています。キャベツが上手くできそうになっていた所で、近所の豚がフェンスの下を掘って入り込んだようで、一夜にして全部食べられてしまいショックでした。この対策も考えないといけない。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2018年9月6日

こちら台湾でも、この夏は、各地で最高気温を大幅に更新した異例の猛暑でした。8月下旬から9月初旬にかけて台湾南部や中部では、大雨に見舞われ、冠水などの被害が相次ぎました。そのような中、家族が守られ、教会の歩みも支えられましたことは感謝です。台南日本語礼拝はスタートから、はや3か月が経過し、8月の集会后には、愛兄弟方が口々に、ここまでの歩みへの感謝、緊張して奉仕に当たった時の神さまの不思議な助けを証してくださいました。これまでのメンバーに加えて、新しく出席するようになった愛兄弟方、聖教會のみならず台南市内の諸教会の日本語を欲する方々も加わっております。台中教会では、夏休みの始まりと共に、恒例とも言える愛兄弟方の出入りが始まり、毎週のように誰かが外に出ているという形態の中、帰宅した方々のお土産話を聞き、いろいろな語らいに花が咲い

ています。求道中のKさん親子は、帰省先の友人の家の近くに、深川教会があることを知り、安問されました。過日の台風直撃のため平日の訪問でしたが、6月に来台・奉仕くださった深川教会のメンバーも急遽、駆けつけてくださり、うれしい再会となりました。

9月2日の歓迎礼拝では、とくにキャンに出席が許された子どもたちを中心となつて、賛美チームが結成され、新しい讚美歌の紹介の時がありました。賛美のすばらしさを体験したので、教会の皆さんとも分かち合いたいという思いから出たもので、「恵みをたくさん受けて帰ってきました。高校3年生全員で演じた無音劇(キリストの生涯)がとても印象的でした。」「聖書の話がとても分かりやすく、聖書をしっかりと読もうと思えました。もう始めています。」との声に、祈って送り出した教会の愛兄弟も、大きな励ましとチャレンジを受けています。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2018年9月5日

8月5日より神栖教会、東関東聖会、林間聖会、新橋教会(日本語中国語礼拝で通訳付きの奉仕)、安食教会、中目黒教会婦人会での報告の機会を与えられました。

今のところ関東方面が多いですが、10月には草津、盛岡に伺う予定です。11月頃には、関西方面に数週間滞在し、周辺教会を連続して巡回する予定です。その後また千葉県我孫子市のミッションハウスに戻り、巡回を続けます。まだスケジュールに空きがありますので、世界宣教局の葛田敬子師までご連絡いただけましたら幸いです。

林間聖会の後、テヌウェクの某宣教師から、消失した建物の一部の機能であった、患者さん用の食事とスタッフ用のチャイを作る台所が再建されたという動画が届きました。Vimeo、Tennessee K、KITCHENで検索すると、公開されている動画視聴ができると思います。今までは、病院奥の

敷地にある看護学校の寮の食堂を間借り。自分たち専用ではない手狭さや不自由さがありました。食事やチャイを運搬する各病棟のスタッフにとっては、院内にあった今までの台所との往復よりも長くて勾配のあるがたがたの地面を一日に何度も往復しなければならぬ苦勞もありました。火災後のがれきの山と片付け後の空っぽを見ただ者にとって、以前のような設備の中で日ごとの糧が整えられていく動画を見てみると、「王の真実」という言葉が浮かび、胸に迫るものがあります。4月に梅田宣教局長が来てくださった時に、インマヌエルを代表して火事の見舞い献金を病院のCEOに渡してくださいました。背後の方々のお祈りと御愛に心より感謝申し上げます。

他に、病院から7、8キロ離れたボメットの町にテヌエックの分院が完成した知らせもありました。4月の局長訪問の際に、建築中のところを見ていただいた場所です。また、新しい歯科眼科棟が出来たことにより、空き場所となった旧眼科用手術室を、日帰り手術のために再構築するので何か意見はないか、という問い合わせもありました。心臓外科に特化して色々な部署や機能を備え付けた建物の計画も進んでいます。どれも患者さんにとっては朗報ですが、この広がりを持つ人材の不足が同時に懸念されます。続いて良い働き人が与えられるようにお祈りください。

■会計報告8月分
宣教師金 一、〇九五、〇五〇円
月平均 二、二〇二、七〇二円

お祈りの課題

- ◆ 香港(鹿島)
- ◆ 夏の営みが祝されたことへの感謝
- ◆ 秋の救霊の戦いのため
- ◆ 中国経済と社会の安定のため
- ◆ 九州聖会に参加が許され、報告の時がもてたこと
- ◆ フイリピン(豊田)
- ◆ 新学年度が始まった学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ訓練と学びに励むことができるように
- ◆ 聖書大学での神学教育の奉仕のために。常喜は『ダニエル書・黙示録』と『ウエスレー神学』を教えてください
- ◆ 事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように
- ◆ カンボジア(葛田縁乃)
- ◆ 伝道者の霊的成長がみられるように
- ◆ 12月完成を前に11月上旬頃視察を兼ねて最終的打ち合わせにかけますのでお祈り下さい
- ◆ 10月はテス先生の新しい職場が与えられるかどうか決定されます。主の御心の道が開かれますようお祈り下さい
- ◆ ザンビア(根廻)
- ◆ ジェンボでの生活が守られ、主を第一にした歩みができるように
- ◆ ザンビア(富澤)
- ◆ 体が季節に順応できますように

- ◆ 新しい局長(お隣さん)と良い意思疎通が図れますように
- ◆ クリニックの職員が一致をもちてご奉仕できますように
- ◆ セキュリティフェンスの対策のため
- ◆ 台湾(平瀬)
- ◆ 新学年度を迎えた台湾の社会・学校の歩みのため
- ◆ 台南日本語礼拝、台中教会の奉仕者が主の恵みに支えられ続けられるように(詩篇五一篇12節)
- ◆ 現在求道中の方々が、イエス様を信じていることができようように
- ◆ 私たち家族の健康と生活のみ守りのため。子どもたちの学びと将来の導きのため
- ◆ 複雑な国際情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定しますように
- ◆ ケニア(葛田就子)
- ◆ 病院食台所の再建と再稼働の感謝
- ◆ 巡回の奉仕が祝されるように
- ◆ テヌウェク病院の働き人(ルカ一〇章2節)特に麻酔科と検査室の必要が満たされるように
- ◆ グローバルユースミニストリー(葛田康毅・由理)
- ◆ 働きを進めるため、良い住居が備えられ、11月に転居ができるように
- ◆ 左肩を手術した由理宣教師のリハビリを含め、宣教師の霊肉のため
- ◆ 定期集会に集うメンバーのため、特にディアスポラの青年層が加えられるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

自己ケア九段

院長 ● 河村 徒彦

「主よ。もう十分です」

(第一列王記一九・4)

最近、比較的奉仕年限の浅い牧師がメンタルなバランスを崩すケースが少なくないと言われ、神学教育の現場で無視できないテーマになっていきます。冒頭の聖句も、奉仕の疲れでメンタルなバランスを崩した人間の姿と見る事ができるでしょう。「それは甘えだ。祈りで乗り切れる」。そのように言えるうちはよいのですが、実際不意打ちのように来るので、自分を律することや意志力ではかわせません。几帳面だったり、自分は

大丈夫と思う人が危ないのです。先日『うつ病九段』という本を読みました。九段のプロの将棋指しの方がある日突然うつ病を発症、その後どのように回復したかを書いた記録です。九段といえばその世界では一握りのエリートです。前日まで元気で、ある朝起きたときに漠と感じた異変、いつもの疲れかと思っで一週間を過ごしたものの、精神科医のお兄さんが本人を見て即入院となりました。今は復帰しておられます。うつ傾向とうつ病は別物です。燃え尽きやうつ傾向に関するケア本はかなり出ていますが、うつ病



オープン・キャンパスの案内を発送する作業です

の方が体験を記したものはあまりありません。その辛さをご本人しかわからないもので、悔しき、喪失感、焦りなど、自分はよくわかっているしなかつたと思えました。春から奉仕環境が変わり、仕事量よりは心を用いる範囲が広がったという意味で忙しい4か月を過ごしました。仕事はこなしたものの今までは何か違うなと感じ、メンタルなバランスと自己ケアに心を用いました。あらためて、人間は弱いと感じました。お祈りに支えられたと思います。恵みに生きるとは、自分の弱さを認めていることです。もっと靈的ぶらないでいいんじゃないか。もっと正直でいいんじゃないか。神の国にエリートはなじみません。人の上に立つのではなく、人の気持ちと弱さに寄り添える「自己ケア九段」でありたいと思います。

神学エッセー

預言書を読む ②

背信と衰退のなかで



林 正弘

預言書の理解のためには時代背景を知ることが大切です。それは、預言者が活躍した時代とはどのようなものだったのでしょうか。預言書を記したとされる預言者が活躍した時代は、年代を特定することがむずかしいケースもありますが、大まかにいって紀元前800年から400年までの間におさまります。他の時代にも預言者は存在しました。アブラハムもモーセも預言者と呼ばれることがありましたが、サムエルやその前後の時代にも預言者は活躍しています。しかし、預言書が記された期間は、特に激動の時代でした。イスラエルの統一王朝は、長くは続きませんでした。ソロモンの次の代で南北に分裂します。そして、偶像礼拝や異教の影響を受け、神の民の中に宗教的、道徳的な面での退廃が進みました。預言者は、律法を守る者には祝福が、守らない者にはのろいがあることをイスラエルに思い出させるために、預

言書を残しませんでした。エリヤとエリシャは、この時代の預言者でした。神の民の霊的状态は、一時的に好転したときもありましたが、全体としては下降線をたどり、捕囚に至ります。この間、多くの預言者が立てられ、そのメッセージが預言書に記録されました。その多くは、叱責と警告でした。北イスラエル王国は、アッシリアによって紀元前722年に滅ぼされます。その前に活動したのがホセアとアモスでした。年代的な順序はアモスが先です。アモスは紀元前760年前後に短期間だけ活動したと考えられています。当時はヤロブアム二世の治世で、経済的には繁栄していましたが、社会には格差が生じ、不正が横行していました。そのなかでアモスは、社会正義の確立を求めて、厳しい審判のメッセージを語りました。アモスからおそらく数年遅れて活動を開始したホセアは、北王国の滅亡の頃まで働きを続けました。国家は、繁栄の余韻が残っているところから一気に衰退します。社会の混乱と宗教的腐敗は頂点に達します。人々はバアルに仕え、主から離れてもはや回復は無理、という状況で、ホセアもまた厳しい審判のメッセージを語りま

◆信徒講座での学び

「続・キリスト教カウンセリング」の講座を受講し
思っています

小松教会 福田順子

前回に続き再びこの講座を受講
できましたことを感謝します。

『定年退職や死を迎えること等
で、今まで出来たことが出来なく
なり「存在」に意味を見出して
いないと、行動する世界は何も無
くなる。福音を知っているとは、私
と云う存在を知っている事で、キ
リスト教は存在の尊重に焦点がお
かれています』と、講座の初日に
語って頂きました。私は、無条件
の神様の愛と恵みの世界を、どれ
程理解、信頼、感謝しているだろ
うか？と心に問いました。「する」
という世界に身を置いている時は、
仕事や生きがいになる何か、教会
に於いても捧げることが出来る事
求められる事に対応する事に焦点
がいき、そこに価値を置くと、心
の自由を失い、心を傷つける危険
すらあると感じました。

夫は退職後、左下肢が不自由と
なり行動し何かをする世界と関係
が無くなったようで、その後聖書
に向き合い、神様を信じ、それ以
来「存在」の意味を見つめながら
生活しています。昨年、夫が受洗
し8か月後、夫と私は長崎の母教

会を去り、その後、長崎市内にあ
る他教団の客員として二人で礼拝
に出席し信仰の交わりに与り、神
様のみ旨を求め、一年が経過した
ところです。そこは、「する」世
界とは異なる「存在」の意味を問
う場所となっています。私はカウ
ンセラーとして公立中学校に勤務
していますが、学校という社会で、
異質のカウンセラーが「存在」す
る事に意味があり、併せて相手が
主体とわきまえ、「無力」である
事の大切さも理解しました。

研修棟が備えられて

ベテルハウス献別式の恵み



千葉教会 池田光重

「神はヤコブに仰せられた。
『立って、ベテルに上り、そこに
住みなさい。そしてそこに、あ
なたが兄エサウから逃れたとき、あ
なたに現れた神のために祭壇を築

きなさい。』(創世記三五章1節)
8月13日夕方、朽ちるに任せて
いた旧女子寮が、新築と見間違
うほどにリフォームされ、献別式
が執り行われました。司会を神学院
学務課の馬場満子姉、経過説明を
河村神学院院长、式辞を内山勝教団
代表からいただき、改築に当たっ
て多大なご愛労を取られた建築責
任者高木督裕兄、田中進財務委員
長、聖宣神学院後援会会長中山朝
雄兄の方々に感謝状が贈られまし
た。

献別式には前日の12日から、改
装された旧女子寮をメイン会場に
第6回YS全国大会に参加されて
いたユースの参加者をはじめ、聖
宣神学院後援会の推進委員の方々
等が多数参加され、ともに献別式
の恵みに与らせていただきました。
その後、参加者全員でバーベ
キューの夕食を楽しみ、お腹も心
も豊かにされました。

旧女子寮の改築に際して、せつ
かく新装となった旧女子寮、新し
い名称をつけようということになり
神学院後援会の推進委員の方々に
名称を募り、多くの候補の中から
「ベテル・ハウス」の名称が選ば
れました。

ベテルはヤコブが神の啓示を受
けて、祝福の契約を与えられた場
所であり、それまではルズと言わ
れていました。「神の家」という
意味があります。冒頭の神の命令
にヤコブは答えます。「私はそこ
に、苦難の日に私に答え、私が歩
んだ道でともにいてくださった神



に、祭壇を築こう。』(創世記三五
章3節) 私たちの教団の歩みも、
また聖宣神学院の歩みも神がとも
にいてくださったことを覚えます。
これまで旧女子寮と呼ばれていた
ところを「ベテル・ハウス」と名
付けたのはまさに「神の家」とし

てこれからも豊かに用いられてい
く施設となるようにとの思いが込
められております。「ベテル・ハ
ウス」は「神の家」として神ご自
身に捧げられました。これからも
研修棟として豊かに活用されてい
くことを期待し、主の聖名を崇め
るものです。

私の神学生時代 主の内住を知る時 13期生●高梨侑子



「何をどう祈ってよいかかわからないけれど、イエス様、あなたを教えてください。」と、これまでの人生で一番祈りました。2年生の終わり頃、「主は堰ぎとめたる河のその氣息にふき潰えたるがごとくに來たりたもうべければなり。」(イザヤ五九・19文語)のみことばの約束のように圧倒的な顕現でご自身を示してくださいました。イエス様は私の心の中に住んでおられるということが分かったのです。私にとって神学院の3年間は、深い淵の底を蹴って、蹴って、光に向かって必死で手足をバタつかせているうちに、ぽっかりと水面に浮かびあがった経験です。3年という時間の感覚から外れた、長い時でした。ギデオンが「汝、此の汝の力をもて行き、…救い出すべし。我汝を遣わすにあらざるや」と送り出されたように、私はイエス様の内住の事実がわかって神学院から送りだされました。教室での学び、訓練、生活のすべてがこの一点でつながり、私にとって卒業はようやくスタート地点に立ったと思います。今日までの多くの方々のお祈りを感謝致します。

「神様のために働くときから、私の本当の人生が始まる、例えば20年、30年先であっても」という思いが与えられたのは19歳の時でした。それから3か月後に献身の道が開かれ、従ったときに求めていた救いと聖潔の経験に導かれました。丸ノ内教会での半年間の献身者生活のあと、13期生として神学院に入学が許されました。北浦和の駅に着くまで電車の中で家が恋しくて泣いていました。しかし、門をくぐった途端、ホームシックが癒され、ここが自分の居るべき場所という平安が与えられたのは不思議です。喜んで入学したのですが、しかし、そこが霊の世界であるということに愕然としました。救われて半年、まだ自分の信仰生活が確立していなかったため、赤ん坊がカレッジに入ったようなものの。教室での学びは信仰が育つための滋養たっぷりのミルクで、ことに神論、キリスト論、聖霊論は御馳走でした。合同祈禱会でお祈りを指名されると震えあがって頭の中は真っ白、何を祈ったのか分かりません。イエス様を信じて救

同窓生の近況

41期生

枚方教会●戸谷富士子



「すると突然、大きな地震が起こり……。」(使徒一六・26、31) 神学院を卒業と共に結婚して京都西教会に2年、この時に長男が誕生し、岡山教会で6年、この時は長女と次男が誕生しました。枚方教会で18年目の歩みの中、献身以来、数多くお祈りに支えられ、主の十全な備えも常にあり、多くのご愛にも支えられました。ここまで守られたこと、心から感謝しています。長男は社会人2年目、長女は社会人1年目で共に奮闘中です。次男は2年前に17歳で先に天に帰りました。どれだけ皆さまのお祈りに支えられたかわかりません。祈られている幸いを知り、祈る器になりたいと思います。今年の6月、枚方に震度6の地震が発生し、再度、多くのお祈りがご支援を頂き、感謝申し上げます。改めてお乘りの尊さを覚えました。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」このみことばが私自身にも、教会員の方々にも、近所の方々にも成就するように、聖霊の導き従って祈りたいと願います。

「すると突然、大きな地震が起こり……。」(使徒一六・26、31) 神学院を卒業と共に結婚して京都西教会に2年、この時に長男が誕生し、岡山教会で6年、この時は長女と次男が誕生しました。枚方教会で18年目の歩みの中、献身以来、数多くお祈りに支えられ、主の十全な備えも常にあり、多くのご愛にも支えられました。ここまで守られたこと、心から感謝しています。長男は社会人2年目、長女は社会人1年目で共に奮闘中です。次男は2年前に17歳で先に天に帰りました。どれだけ皆さまのお祈りに支えられたかわかりません。祈られている幸いを知り、祈る器になりたいと思います。今年の6月、枚方に震度6の地震が発生し、再度、多くのお祈りがご支援を頂き、感謝申し上げます。改めてお乘りの尊さを覚えました。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」このみことばが私自身にも、教会員の方々にも、近所の方々にも成就するように、聖霊の導き従って祈りたいと願います。

神学院スタッフ…恵みの想起

歴史資料を読んで

図書館 小林佳

いつも聖宣神学院のために尊いお祈りをありがとうございます。来年は創立70周年を迎え、さまざまな準備が進められておりますが、その中でひとつ感じますことは、改めて神学院の歴史を顧みることの大切さです。

現在、私は図書館司書として書籍管理だけでなく過去の歴史資料(アーカイブ)の管理にも携わっておりますが、その中には過去の神学院報があり、内容を読みます時にその歴史の重みを感じます。

時代は変わり、神学院の営みも変わりつつあります。しかし聖書のみことばに堅く立ち、まっすぐに伝える(IIテモテ二章15節)というスピリットは今も変わっていません。神学院の歴史を顧みるときに、この大切さに改めて気づかれます。

学苑だより



●夏期実習が終わり、神学生が戻って来ました。

●集中講義2科目、関東聖化大会オープンキャンパスと続きます。にぎやかな月になります。

●研修棟では、早速、教区主事会議と教団運営委員会が行われました。教団の研修や委員会だけでなく、各教会のキャンプや霊修会、アラムナイ関連団体にもお使いいただけます。また、外部の学生団体からも使用の希望が寄せられています。現在、使用要項を作成中です。

●後援会の創立70周年記念感謝献金はそれぞれ感謝を表したく、可能な範囲でお加わりください。

●後援会では引き続き世話人のご推薦をお願いしています。

●営繕ボランティアのご奉仕にお加わりいただける方がありましたら徳竹信雄先生にご連絡ください。

●神学院祈り会は9日(火)です。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。8月の会計報告をさせていただきます。

8月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥602,600
教会団体による「神学院献金」
¥426,495
合計¥1,029,095
その他の献金(一時・特別)
¥548,420

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「美り多い働きをもちたらず門が私のために広く開かれています、反対者も大勢いるからです。」

(一コリント一六・九)

収穫の秋、収穫の主を目を上げつつ、主が広く開いてくださる畑で労させていただきますよう、多くの困難、反対する世の力を覚えながらも、恵みによって貴重な実りを得る喜びとともに味わうために、それぞれの遣わされた地にあつて、真実に主に仕えましょう。

■本部

10月21日(日)は、73回目の教団創立記念日を迎えます。IGM所属の全教会は、この創立記念日を覚えて「教団創立記念礼拝」を行い、礼拝時に感謝献金を実施します。ご協力をお願いいたします。(会議)

2日(火) 拡大財務委員会
(予算編成方針)

■国内教会局

〈10月に行われる聖会〉

◇静岡聖会

10月7日(日) ～ 8日(月)

講師・小平牧生師

会場・磐田グランドホテル

◇北越聖会

10月9日(月)

(新潟地区) 長岡教会

(北陸地区) 金沢教会

〈10月に行われる教区会〉

1日(月) 東関東、中京教区会
1日(月) ～ 2日(火)

南九州教区会

8日(月) 沖繩教区会

8日(月) ～ 9日(火)

東北教区会

15日(月) ～ 16日(火)

四国教区会

16日(火) 近畿教区会

22日(月) 中国教区会

29日(月) ～ 30日(火)

北九州教区会

《JHA関係》

▽第33回関東聖化大会

10月14日(日) ～ 16日(火)

講師・石田学師

▽第30回東海聖化大会

10月21日(日)

講師・内山勝師

▽第75回ウエスレーに学ぶ会

10月19日(金)

▽第9回備前聖化大会

10月21日(日)

講師・田代幸雄師

■世界宣教局

▽9月25日(火)に、局運営委員会並びに局員会を開催しました。宣教師たちも時差はあるもののネットによる委員会で、久しぶりに顔を合わせて語り合い、祈り合うことができました。

▽11月18日(日)は宣教師聖日です。例年のように今月末に宣教ビデオを教会にお届けいたします。また「宣教コイン献金」にもご協力を願います。

▽2019年の宣教訪問団(案内*訪問地)ザンビア共和国

*日程 8月末から9月初め

*団長 岩上頼子師(神戸教会)

*参加者 青年、医療宣教に関心のある方など、8名まで(教育局との共催により青年へ補助あり)

▽台風22号(マンクット)が直撃したフィリピン、影響を受けた台湾や香港などの宣教地のためにお祈りください。

《IWF関連》

▽ホリー・ミュールハイゼン宣教師(WGM)は10月16日に米国に帰国し2019年9月まで巡回されます。祝福を祈りましょう。

▽ブランドン・久芳宣教師(WGM)のアメリカでの巡回が最後まで守られ、すべての必要が満たされ、無事、日本に着任なさるよう祈りましょう。

▽IWF基金は、申請すれば、IWFの宣教師を教会に招くための支援、また会堂の修理や改築費用の融資ができます。お問い合わせは委員の梅田登志枝師まで。

■聖言神学院

▽秋の入学審査発表

西潟証兄(深川教会出身、聴講)が合格されました。これからの学びの祝福をお祈りください。

▽オープン・キャンパスのご案内

10月19日(金)午後20日(土)昼。体験授業は林正弘先生、院長が担当。いまからでもお申込みいただけます。

▽10月の集中講義

2日(火) ～ 5日(金) 新約神学(葛田崇志先生)

11日(木) ～ 12日(金) キリス

ト教育・青年(葛田聡毅先生)

▽後期の教会実習は28日(日)開始。受け入れ教会に感謝致します。

▽オープン・キャンパス2「BTCリトリート」のご案内

12月27日(木)夜 29日(土)午前。夜の聖会は日本宣教会の小坂嘉嗣先生。聖会は一般公開です。

▽信徒土曜講座の秋学期は、いまでも申込が可能です。「教会って何だろう?」(矢木良雄先生)は10月6日(土)開講、「続・聖書読解法」は12月15日開講です。

▽神学院祈り会は9日(火)、奨励は田中進先生です。

▽研修棟使用については、学務課(担当・馬場姉)までお問い合わせください。

▽後援会からのお知らせ

10月27日(土) 関東4教区世話人会(10時30分～15時、聖言神学院)

神学院創立70周年記念感謝献金(2019年5月まで)は感謝の表明としてお加わりください。

各教会の世話人のご登録をお願いしています。まだの教会はぜひご推薦ください。

■信徒局 教会活動支援部

第5回カナ・フェロシップ「結婚について考えるセミナー」テーマ「恋愛・結婚!」を開催します。日時 11月17日(土) 10時30分～12時30分

会場 中目黒教会

講師 日本同盟教団習志野台キリスト教会 丸山園子牧師

どなたでも自由に参加できます。

入場無料・席上献金あり。

■出版事業部

▽「こころcafe」が再刷されました。新刊特価は年内となりまします。この機会にお求めください。

■教育局

(会議)

2日(火) 教会学校部部会

4日(木) 生涯学習課会議

15日(月) 教育局運営委員会

《eラーニング次回講座の案内》

「福音に生きる教会の讃美・豊かな礼拝のために」中山信見先生(JECA) 菅生キリスト教会牧師) 現在、受講申込受付中!!

(開講期間) 前期 2018年11月8日～11月28日、後期 2019年1月10日～2月6日(年末年始4週間は休講)

講師は、教会福音讃美歌編集に最前線でご関わり、現在は同協合理事長としての重責を担いつつ、讃美歌の作詞作曲や翻訳に取り組み、日本の諸教会で讃美が豊かにされることを願って研鑽・奉仕し続けておられる器です。受講する方々の讃美への理解が深められ、その方を通して諸教会に讃美の恵みが広がることでしよう。讃美に関心のあるすべての牧師・信徒の皆様への受講を心からお勧めします。

IGM公式HP「最近の動き」の所に、eラーニング受講生募集情報が詳しく掲載され、講師インタビュー動画も見ることが出来ますのでご覧ください。各教会からの受講者をお待ちしています。

教報PDFパスワード 85996

新生宣教団 定価 一部 〇〇円(税込)

郵便振替 001107133609

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル

イムマヌエル綜合伝道団本部

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣

発行所 東京都千代田区神田駿河台一